

『**第十一回国際オリムピック大会水上競技実況放送（女子二百米平泳決勝）**』

04_14 伯林オリムピック・プールより 川西三省』（ニュース・レコード 日本放送協会著作権所有, ポリドールレコード）Live Broadcast of Women's 200m Breaststroak Final at the 11th Summer Olympics in Berlin, Polydor Records

04_15 『大東亜戦史 第二部 大詔渙発 鷗の羽博くところ（ハワイ海戦）』（編輯 社団法人同盟通信社、製作 帝国蓄音機株式会社）Military History of Dai-To-A: Part 2: Promulgation of an Imperial Rescript, Where the Peng Flaps it's Wing (Attack on Pearl Harbour), Teichiku Entertainment

04_16_01-21 『チョコレートと兵隊』（日本教育紙芝居協会）Chocolate and Soldier, published by Nihon Kyoiku Kamishibai Kyokai (Japanese Educational Kamishibai (Paper Theater) Association)

04_17 北川民次 KITAGAWA Tamiji

04_18 『機械化兵器讀本』（東京日日新聞社、大阪日日新聞社）Kikaika Heiki Dokuhon (Mechanized weapons readings) Published by Tokyo Nichi Nichi Shimbunsha, Osaka Nichi Nichi Shimbunsha

04_19_01-55 『機械化』1940年8月号～1945年2・3月号（山海堂）Kikaika (Mechanization), full editions from August 1940 to February and March 1945, published by Sankaido

04_20 今和次郎 KON Wajiro

04_21 藤田嗣治 FOUJITA Tsuguharu

04_22 鶴田吾郎 TSURUTA Goro

04_23 『ハワイ・マレー沖海戦』（東宝）チラシ Flyer of The War at Sea from Hawaii to Malaya, Toho

04_24 『ハワイ・マレー沖海戦』（東宝）リーフレット(表) Brochure of The War at Sea from Hawaii to Malaya, Toho

04_25 『ハワイ・マレー沖海戦』（東宝）プレス資料（赤） Press release of The War at Sea from Hawaii to Malaya, Toho (red version)

04_26 『ハワイ・マレー沖海戦』（東宝）プレス資料（黄） Press release of The War at Sea from Hawaii to Malaya, Toho (yellow version)

04_27 『ハワイ・マレー沖海戦』（東宝）子供向けナパンフレット Brochure for young of The War at Sea from Hawaii to Malaya, Toho

04_28 『ハワイ・マレー沖海戦』（東宝）写真帖 Photo album of War at Sea from Hawaii to Malaya, Toho

04_29 川端龍子 KAWABATA Ryushi

04_30-32 落谷虹児 FUKIYA Koji

04_33 『大空につづけ』（東亜国策画劇株式会社）Follow Us to the Sky, published by Toa Kokusaku Gageki Kabusikigaisha (East-Asian National Paper Theater Company Co. Ltd.)

04_34 『神兵と母』（大日本画劇株式会社）Divine Soldier and Mother, published by Dainihon Gageki Kabusikigaisha (Great Japan Paper Theater Company Co. Ltd.)

04_35 宮本三郎 MIYAMOTO Saburo

04_36 谷内六郎 TANIUCHI Rokuro

04_37 ハナヤ勤兵衛 HANAYA Kanbei

04_38 山下菊二 YAMASHITA Kikuji

04_39 ハイレッド・センター Hi Red Center

04_40 《殺すな（『ワシントンポスト』1967年4月3日 紙面広告）》KOROSUNA: Do not Kill (Opinion Ad on the Washington Post, April 3, (1967)

04_41 桂川寛 KATSURAGAWA Hiroshi

04_42 赤瀬川原平 AKASEGAWA Genpei

04_43 櫻画報社 Sakuragaho-Sha

04_44 山下菊二 YAMASHITA Kikuji

04_45 太田三郎 OTA Saburo

★★★★★ 日常生活 私と私たち

05_01 桂ゆき KATSURA Yuki

05_02 中村宏 NAKAMURA Hiroshi

05_03 石元泰博 ISHIMOTO Yasuhiro

05_04 長野重一 NAGANO Shigeichi

05_05-08 赤瀬川原平 AKASEGAWA Genpei

05_09 しりあがり寿 SHIRIAGARI Kotobuki

トピック 『月光仮面』と川内康範

T1_01 『月光仮面』（南旺社）全4巻 Gekko Kamen (Moonlight Mask),published by Nan-o sha

T1_02 『愛の戦士 レインボーマン』主題歌レコード（朝日ソノラマ）Ai No Senshi (Warrior of Love) Rainbowman: Theme song (Asahi Sonorama)

T1_03 『ぶらい』（八光書房） Burai, published by Hakko Shobo

T1_04 グリコ・森永事件 怪人二十一面相からの手紙 Letter from the Fiend with Twenty-one Faces インク（ワードプロセッサー）・紙

T1_05 大阪読売新聞原稿「僕は今日から始まる 二十一面相諸君へ」 Atone ment begins today - Letter for the member of the Fiend with Twenty-one Faces

トピック ゴジラを見上げる人々

T2_01 『ゴジラ』（東宝）絵コンテ写真アルバム（本多猪四郎監督旧蔵） Photo albums as Storyboard of Godzilla, Former Collecton of HONDA Ishiro

T2_02 『ゴジラ』（東宝）宣伝ポスター Poster of Godzilla

トピック 『ウルトラマン』と金城哲夫

T3_01 『ウルトラQ』第2話脚本 Scenario of Ultra Q, Episode 2

T3_02 『ウルトラQ』第27話脚本 Scenario of Ultra Q, Episode 27

T3_03 『ウルトラQ－あらすじ集－』 Ultra Q - Synopsis

T3_04 『ウルトラマン』第20話脚本 Scenario of Ultraman, Episode 20

T3_05 『ウルトラマン』第26話脚本 Scenario of Ultraman, Episode 26

T3_06 『ウルトラマン』第27話脚本 Scenario of Ultraman, Episode 27

T3_07 『レッドマン [ウルトラセブン]』第2話脚本 Scenario of Redman [Ultraseven] , Episode 2

T3_08 『ウルトラセブン』第8話脚本 Scenario of Redman [Ultraseven] , Episode 8

☆私たちの時代の表現 柳瀬安里

y_01 《線を引く》 Draw a Line

y_02 《土の下》 Below the Ground

☆私たちの時代の表現 会田誠

a_01 《MONUMENT FOR NOTHING V ～にほんのまつり～》 Monument for Nothing V - Japanese Matsuri

a_02 《ふるさととはNo Feeling（「みんなといつしょ」シリーズより）》 "Hometown is 'No Feeling'" (from "Minna to Issho" series)

a_03 《ネクタイ・ビル∞》 Necktie Buildings ∞

☆私たちの時代の表現 石川竜一

i_01 《okinawan portraits》 okinawan portraits

i_02 《MITSUGU》 Mitsugu

☆私たちの時代の表現 しりあがり寿

s_01 《ヒーローの皮》 Skin of Heroes

s_02 《地藏マンZ》 Zizo-man Z

Oh!マツリ★ゴト 昭和・平成のヒーロー&ピーポー

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通 1-1-1 [HAT 神戸内]
Tel.078-262-0901(代)
https://www.artm.pref.hyogo.jp/

★ 集団行為 陶酔と閉塞

01_01-02 小川治平 OGAWA Jihei

01_03 今和次郎 KON Wajiro

01_04 岡本唐貴 OKAMOTO Toki

01_05-08 安井仲治 YASUI Nakaji

01_09 阿部合成 ABE Gosei

01_10 鶴岡政男 TSURUOKA Masao

01_11 内田巖 UCHIDA Iwao

01_12 桂ゆき KATSURA Yuki

01_13-15 上野誠 UENO Makoto

01_16 巖囀 Ay-O

01_17 河原温 KAWARA On

01_18-19 石井茂雄 ISHII Shigeo

01_20 中西夏之 NAKANISHI Natsuyuki

01_21-22 長野重一 NAGANO Shigeichi

01_23 『ガロ』1964年9月号～1971年10月号（青林堂）Garo, numbers from the first 8 years from September, 1964 to October, 1971, published by Seirindo

01_24-25 東松照明 TOMATSU Shomei

01_26 佐々木正芳 SASAKI Masayoshi

01_27 柳幸典 YANAGI Yukinori

01_28-30 会田誠 AIDA Makoto

★★ 奇妙な姿 制服と仮面

02_01-04 今和次郎 KON Wajiro

02_05 『黄金バット 電気機関車』（蟻友会）Ōgon Bat (Golden Bat) - Electric Locomotive, published by Giyukai

02_06 『黄金バット ナポレオン探偵』（蟻友会）Ōgon Bat (Golden Bat) - Napoleon Detective, published by Giyukai

02_07 『黄金バット』（蟻友会） Ōgon Bat (Golden Bat)

02_08 小林秀恒 KOBAYASHI Hidetsune

02_09 堀野正雄 HORINO Masao

02_10 安井仲治 YASUI Nakaji

02_11-12 川上澄生 KAWAKAMI Sumio

02_13 北川民次 KITAGAWA Tamiji

02_14 ハイレッド・センター Hi Red Center

02_15-21 平田実 HIRATA Minoru *ハイレッド・センター Hi Red Center, ゼロ次元 Zero Jigen (Zero Dimension)

02_22 中村宏 NAKAMURA Hiroshi

2019年 1月12日（土） - 3月17日（日）

■鑑賞の妨げになりますので、携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてください。会場内での通話はご遠慮ください。
■作品に手を触れないでください。
■会場内での写真撮影は禁止です。ただし「撮影OK」の表示のある作品は特別に撮影可能です。
■会場内での飲食（あめ・ガムなどを含む）はご遠慮ください。
■会場内でメモをとる場合は鉛筆をご使用ください。
□作品の展示順序は出品番号と異なる場合があります。
□作品保護のため、照明を暗くしている場所があります。
□作品保護のため、温湿度を一定に管理しています。

02_23-24 秋山祐徳太子 AKIYAMA Yutokutaishi

02_25-26 郭徳俊 KWAK Duck-Jum

★★★ 特別な場所 聖地と生地

03_01 北蓮蔵 KITA Renzo

03_02 小野佐世男 ONO Saseo

03_03 松本竣介 MATSUMOTO Shunsuke

03_04 木村伊兵衛 KIMURA Ihei

03_05 桂川寛 KATSURAGAWA Hiroshi

03_06-07 『週刊小河内 かくて斗ははじまつた！』 Weekly Magazine Ogochi: The Fight's Begun in This Way

03_08 『下丸子文化集団叢書II 高島青鐘詩集』 Takashima Seito Poetry

03_09 「一九五二、八、六、小河内村真相調査団報告」 Report of Fact-finding in Ogochi Village, August 6, 1952

03_10 小林ひろし KOBAYASHI Hiroshi

03_11 山下菊二 YAMASHITA Kikuji

03_12 『観て来た沖縄』nos. 1-7 Okinawa, That I Have Seen, nos 1-7

03_13 『がじまる(沖縄研究会会報)』第1-4号 Bulletin of Association of Okinawa Study: Gajimaru (Chinese banyan), nos. 1-4

03_14 琉球列島米国民政府発行 日本渡航証明書（金城哲夫(1938-1976)の本土渡航用パスポート） Japanese travel certificate for Kinjo Tetsuo (passport)

03_15 桂川寛 KATSURAGAWA Hiroshi

03_16-17 村井督侍 MURAI Tokuji

03_18 立石絃一 TATEISHI Koichi

03_19 松本俊夫（音楽:秋山邦晴） MATSUMOTO Toshio (Music: AKIYAMA Kuniharu)

03_20 福沢一郎 FUKUZAWA Ichiro

03_21 白川昌生 SHIRAKAWA Yoshio

03_22 Chim † Pom Chim † Pom

★★★★ 戦争 悲劇と寓話

04_01-06 田河水泡 TAGAWA Suihou

04_07-08 瀬尾光世 SEO Mitsuyo

04_09 榎本千花俊 ENOMOTO Chikatoshi

04_10 千人針 Senninbari (thousand-person-stiches)

04_11 千人針(虎柄) Senninbari, tiger pattern (thousand-person-stiches)

04_12 「誉の家」表札 Name plate for the Homare no Ie (House of Honor)

04_13 『決戦の歌 進め一億火の玉だ』(防衛総司令部選定・大政翼賛会作詞作曲, ヴォーカル・フォア合唱団, キングレコード) Kessen no Uta: Susume Ichioku Hi no Tama da, King Records

担当学芸員によるワンポイント解説

★ 集団行為 陶酔と閉塞

① 桂ゆき《さる・かに合戦》

昔話を鮮やかな色彩で描いた作品です。1948年という制作時期を考えると、ただ単に昔話の一場面を描いたものというよりも、力をあわせて猿をこらしめる蟹や白や蜂の姿によって、団結する人々の姿をあらわしたものと見るべきでしょう。ちなみに隣り合う内田巖の作品も同じ1948年の作品です。

② 岡本唐貴《争議団の工場襲撃(復元画)》

会場の中でどの壁にかけるか最後まで考えた作品です。この作品は1929年に描いた作品を画家本人が資料を見ながら1974年に描きなおした「復元画」だからです。1929年の絵として展示場所を最初の方に置くのが普通でしょうが、画家が1974年に復元を行ったことの意味を考える必要もあり、結局、物理的な都合もあってこの二つの年の間に置くことにしました。そうするとこの絵の先に、画家の長男である漫画家・白土三平が活躍した漫画誌『ガロ』が見えるようになりました。1929年の原作は制作時に連戦政府の買い上げとなり、その後行方がわからなくなりましたが、近年エルミタージュ美術館で再発見されたことで話題となりました。

★★ 奇妙な姿 制服と仮面

③ 女学生たち

この一画には女性を写したり描いたりした作品が並んでいます。制服を着た女学生をモチーフとする堀野正雄、安井仲治、中村宏の作品を見比べると、素顔をさらすもの、覆面で顔を覆うもの、怪物のように姿をかえてしまったものと、三者三様に女学生の姿をとらえているのがわかります。北川民次の《白と黒》にも制服は着てはいませんが女学生の姿があります。この女性は60年安保闘争の際に命を落とした女子大学生の榊美智子をモデルにしています。

トピック

④ トピックの場所

ここでは「トピック」として、『ゴジラ』、『月光仮面』、『ウルトラマン』というそれぞれ多くの人に親しまれた映画やテレビ番組とその制作に深く関わった人物の活動をご紹介します。これらは各章からは独立していますが、複数の章に関係する内容も含んでいます。展覧会場では3つのトピックが近くにまとまっていますが、図録では章と章の間に配置しています。これもトピックが全体の構成とは独立した内容であるためです。

★★★ 特別な場所 聖地と生地

⑤ 『観て来た沖縄』と『がじまる』

おそらく本土での紹介は今回が初めてとなる資料です。『ウルトラマン』の企画と脚本をつとめた金城哲夫が高校、大学時代に親友となる一年先輩の森口豁とともに発行した学内同人誌と壁新聞です。森口はその後、ジャーナリストとして沖縄に移り住み、沖縄報

道に生涯を捧げることになります。金城の生家には1968年発行の「渡航証明書(パスポート)」が残されています。沖縄は1972年5月15日の本土復帰まで米国政府の統治下にあったため、沖縄と日本本土とを行き来するにはこうした「パスポート」が必要でした。

⑥ 白川昌生《無人駅での行為(群馬と食)》

誰もいない電車のホームでカップ麺を食べているのは作家本人です。このカップ麺が作家の居住する群馬県で生産されていることから、地域と食と文化との結びつきを考えるパフォーマンスとして実行されたものです。ちなみにこのカップ麺は関西ではあまり見かけませんが、関東出身の担当学芸員にはなじみ深い一品です。写真の横には作業着もかけられていますが、これはパフォーマンスをする際に作家が必ず身に着けているものだそうです。

★★★★ 戦争 悲劇と寓話

⑦ 千人針

榎本千花後の日本画や田河水泡の『のらくろ総攻撃』の一コマに登場する千人針の実物を2点、ケース内でご紹介します。1点はかなり使い込まれた様子で、実際に戦地まで持っていかれたものでしょう。もう1点はよく見ると縫い取りが途中のままです。千人針を用意する間に終戦を迎えたのか、それとも別の理由でやめられたのか定かではありません。

⑧ 小さな飛行機

北川民次の《鉛の兵隊[銃後の少女]》と藤田嗣治の《十二月八日の真珠湾》。隣り合う2点の絵には、どちらにも小さな飛行機が空を飛んでいます。北川の作品は玩具の飛行機が空を飛んでいる一種のファンタジーで、藤田の作品は歴史的場面として描かれたものですが、藤田の方の飛行機もあまり小さく描かれているので玩具のように見えます。藤田はこの絵を描く際に、当時制作中だった山本嘉次郎監督の《ハワイ・マレー沖海戦》の特撮セットを見学に訪れています。そうした経験がどこか作り物めいた画面に影響したのかもしれませんが。

⑨ 兵士のポーズ

鶴田吾郎の《神兵 パレンバンに降下す》の画面の左下で手榴弾を投げようとする兵士のポーズを覚えておいてください。これとそっくりの姿をした兵士を、この部屋の真ん中でご紹介している紙芝居の中に見つけることが出来ます。おそらく紙芝居の画家が、鶴田の作品を参考にしたのでしょう。戦争画と呼ばれる作品の影響力の一端をうかがい知ることのできるポイントです。

⑩ 「誉の家」表札

千人針が兵士を送る際に用意されるものであるのに対し、「誉の家」の表札は戦死した兵士の家族に送られたものです。

★★★★★ 日常生活 私と私たち

⑪ 桂ゆき《夜》

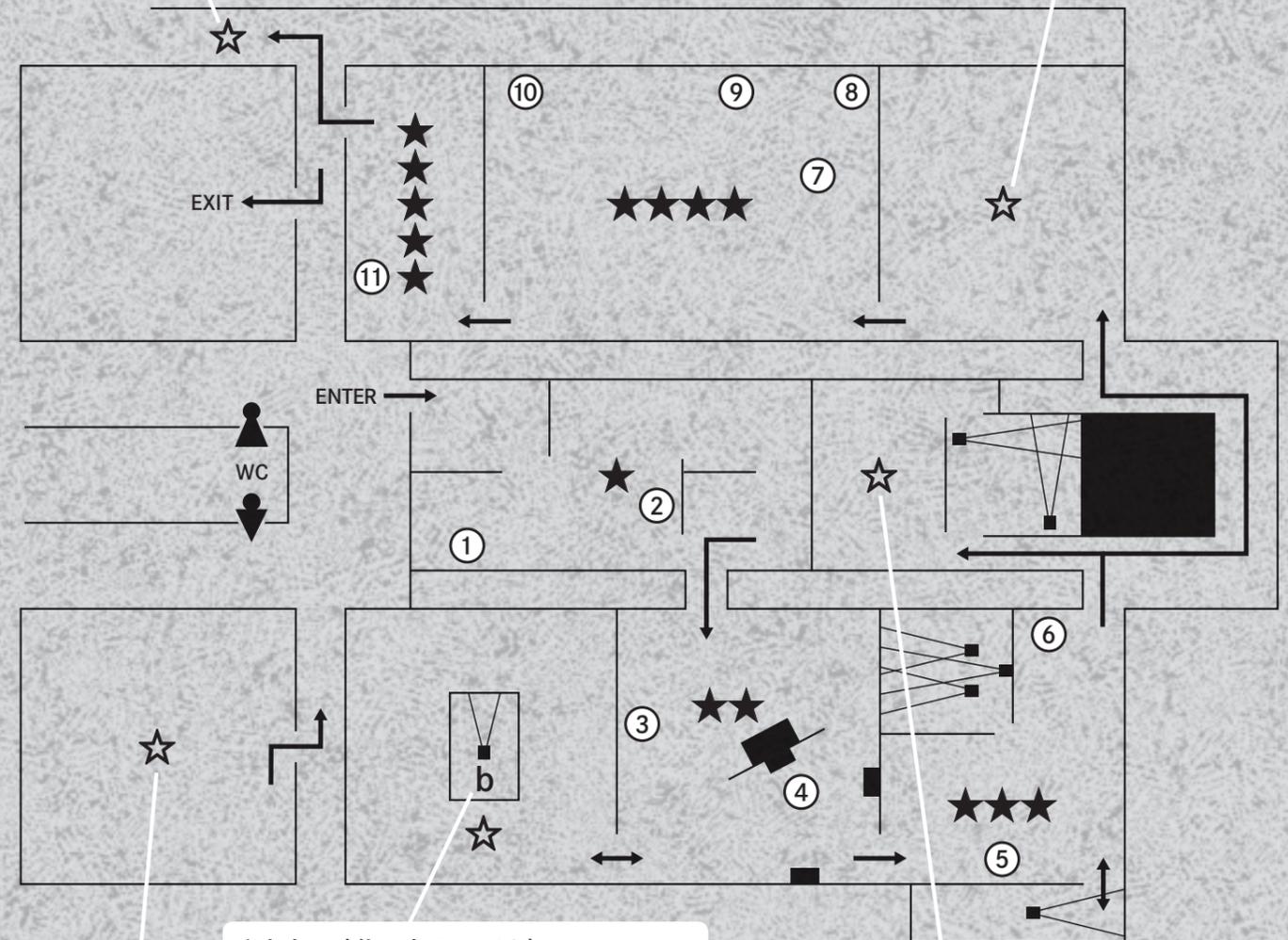
最初の展示室で《さる・かに合戦》について解説をした桂ゆきの作品です。絵の雰囲気はまるで違いますが、この2点は同じ1948年の作品です。

私たちの時代の表現 しりあがり寿 e《地藏マンZ》

展覧会の最後をしめくくるのもしりあがりさんによるアニメ作品です。主人公のヒーローはなんとお地藏様。その独特な変身方法や、一度聴いたら頭から離れないエンディング曲など、病みつきになるポイント満載です。さらに主人公の声優は有名歌手のあの人ではありませんか!!

私たちの時代の表現 会田誠

d《MONUMENT FOR NOTHING V~にほんのまつり~》
会田さんのツイッターによれば「自分史上最大サイズの立体作品」とのことです。それ以上の詳しい解説は行わないとのことなので担当の責任で見所をお伝えすると、空からやって来た巨大な「彼」の指先にある墓石はどこかで見た建物に似ているの気づかれましたか?



私たちの時代の表現 石川竜一 b《MITSUGU》

独立した部屋の中に10点の写真と映像1点が展示されます。作品の題名は被写体となった男性の名前。作品内容については石川さん自身のコメントがありますので、そちらをご覧ください。小屋の周囲の壁面には、石川さんのこれまでの代表作が本展のための構成によって展示されます。

私たちの時代の表現 しりあがり寿 a《ヒーローの皮》

展覧会の最初を飾るのがしりあがりさんによる新作インスタレーションです。当館でも随一のフォトジェニックな空間に色々なヒーローのコスチューム(?)がぶら下がるという、なんともシュールなシチュエーション。実はこのインスタレーションは関西一円のご当地ヒーローとのコラボレーションにより実現しました。皆さんが知っているヒーローが見つかるかも!?

私たちの時代の表現 柳瀬安里 c《土の下》

今展のための新作となる写真作品は、柳瀬さんの実家であるお寺の周囲を舞台にして撮影されたものです。被写体となっているのは柳瀬さん自身とその家族ですが、家族はいずれも紙で出来た人形だそうです。肉体をもった存在とペラペラの紙になってしまった存在、この世とあの世、色々な境界を行き来する不思議なパフォーマンスがひまわりの一生涯とともに繰り広げられます。